

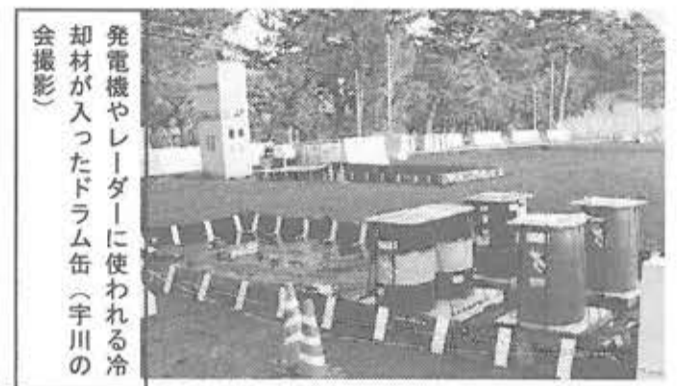
住民の「安全・安心」を確保する取り組みを合わせていくことが重要です。そして、憲法に反する集団的自衛権行使容認の閣議決定にもとづき次々出される「戦争政策」「戦争立法」で「戦争する国」にさせないために運動を広めましょう。そしてこの夏、世界・宇宙の軍事利用に反対し、経ヶ岬の米軍レーダー基地にも訪れる計画で、グローバルネットワークというグループの年次総会が京都で開かれます。シンポジウムやバスツアーなど企画の紹介もひきつづき行っていくますが、沖縄をはじめ運動の連帯をひろめましょう。



弾倉付きの自動小銃を携行するシエネガ社の警備員は軍属

生かそう憲法、守ろう9条
5・3 戦争する国にしない、させない
憲法集会 in 京都
講演：「集団的自衛権行使は亡国の安全保障」 講師：柳澤協二さん
日時：5月3日 午後2時～
場所：円山音楽堂

米軍基地は京都にも沖縄にも
日本のどこにもいらない！
京都安保学習講演会
講演：京都の米軍基地 根っこに安保
講師：小泉親司さん
日時：5月23日 (13:40～)
場所：職員会館かもがわ



発電機やレーダーに使われる冷却材が入ったドラム缶(宇川の会撮影)

〈平和随想〉
安倍晋二さんの頭の音

橋本 安彦

明治維新の動乱が少しおさまった頃、流行したハヤシコトバにそのようなのがあったと言う。「チョンマゲ頭を叩いてみれば」「因循姑息」の音がする。「ザンギリ頭を叩いてみれば」「文明開化」の音がする。

では、今、秘密保護法を作ってみたり、戦争指導部とも言うべき四大臣会合(日本版NSC)を作ってみたり、集団的自衛権行使容認の閣議決定をしたり、憲法破壊、「戦争する国」づくりへのめりになっていく安倍首相の頭を叩いてみればどんな音がするだろうか。

私が思うには、叩いたらその瞬間にオルゴールのスイッチが入ったように「愛国行進曲」(註3)がなり出すにちがいない。

昭和十年代後半以降に生まれた人はご存じないと思うので、メロディはともかく歌詞を紹介すると

一、みよ東海の空あけて
旭日高く輝けば
天地の正気深淵と
希望は踊る大八州
聳ゆる富士の姿こそ

金甌無欠 揺るぎなき
わが日本の誇りなれ

二、起て一糸の大君を
光と永久に頂きて

臣民の我等皆共に
御稜威に副はむ大使命
往け八紘を宇となし
四海の人を導きて
正しき平和を打ち立てむ
理想は花と咲き薫る

二、今幾度の我が上に
試練の嵐降るとも
断乎と守れその正義
進まむ道は一つのみ
嗚呼悠遠の神代より
大行進の行く彼方
皇国常に栄えあれ

今にして思えば、教育、洗脳の結果とはいえずい分大時代がかつたものだと思う
特に傍線部分は幸いなことに死語に等しい。

安倍さんは麻生さんと違って恐らくすべて正確に読めるにちがいない。

しかし、この歌詞は今の安倍さんの思想を実によく表していると思うのである。
「日本を取り戻す」と呼号する安倍首相の「日本」とはおそらくこういう「日本」なのであろう。
彼の頭の中は七〇年培ってきた平和憲法にもとづく「戦後レジーム」の全否定であるからして民主教育、労働法、

書籍(パンフレット) 紹介

本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」
前泊博盛編著/明田川融、石山永一郎、矢部宏治著



なぜ米軍は自国ではできない危険なオスプレイの訓練を日本では行なうことができるのか？
なぜ日米地位協定は日本国憲法の上位法として扱われているのか？
基地問題だけでなく原発事故やその再稼働問題、TPP参加問題など、現在の日本で起きている深刻な出来事の多くが在日米軍がもたらす国内法の機能停止状態に起源をもっている。「戦後日本」最大のタブーである日米地位協定に迫る。

■発行 創元社
■発行年月 2013年2月
■定価 1,620円(税込み)(四六判416頁)

農協、文民統制、三件分立、地方自治、国民主権などを次々破壊してきている。
だが、こんなアナクロニズム的な妄想に国民が引きずり込まれるのは全くお断りである。一刻も早く辞めてもらわねば日本が減ぶ。
【付記・註釈】
註1 「因循姑息」(いんじゆんこそく) 古いしきたりにこだわって、その場しのぎに終始すること。
註2 「文明開化」明治初年の近代化や欧化主義の風潮を指して行った言葉。「愛国行進曲」一九三七年八月に閣議決定された「国民精神総動員」の方針のもと、国民が永遠に愛唱すべき国民歌として公募選定された歌詞をもとに仕上げられ、曲は軍艦マーチの作曲者である瀬戸口藤吉氏の作曲で勇壮なもので同年十二月に発表された。
「大八州」(おおやしま) 日本国土のこと。
「大君」(おおきみ) 天皇のこと。
「金甌無欠」(きんおうむけつ) 傷一つない金の甌のこと。
「臣民」(しんみん) 国民はすべて天皇の家来とされた。明治憲法のもとでの国民のこと。
「御稜威」(みいつ) 天皇、神などの威光。
「八紘一宇」(はつこういちう) アジア太平洋戦争期、日本の海外侵略を正当化するために用いた標語。